第 13 回国際芥川龍之介学会　ロシア大会　プログラム

InternationalSocietyforAkutagawa[Ryunosuke]Studies

2018 年 9 月 20 日（木）・21 日（金）　　研究発表

サンクト・ペテルブルク大学（ロシア）
175 号室（東洋学部 2 階）
Universitetskaya naberezhnaya, 11

大会テーマ「芥川龍之介とロシア／ロシア文学」

※　（　　）内末尾は所属・留学先大学の所在地

大会実行管理　　フロノープロ・リアーラ（サンクト・ペテルブルク大学）
　　五島　慶一（熊本県立大学・大会実行委員長）
大会進行役　　（第１日）　秦　剛（北京外国語大学／中国）
　　（第２日）　武藤　清吾（琉球大学／日本）

〔第１日目〕
9：40～　受付開始
10：00 ～
◇開会の辞　　国際芥川龍之介学会副会長　　秦　　剛
◇会長挨拶　　国際芥川龍之介学会会長　　宮坂　覺
◇会場校挨拶　　サンクト・ペテルブルク大学東洋学部日本学科長　フィリッポフ・アレクサンドル

第 I 部
10：10～12：00　小特集①「芥川作品の中の〈ロシア〉、あるいは芥川の〈ロシア〉体験」
司会　五島　慶一（熊本県立大学／日本）
本大会のテーマ・構成について
五島　慶一
「山鳴」――原稿からの考察――
奥野　久美子（大阪市立大学／日本）
「羅生門」に見られる老婆の獣性――「罪と罰」との比較を通して――
宮﨑　由子（熊本学園大学付属高等学校・熊本県立大学院／日本）
「歯車」におけるフォルマリズムとの接点――「詩的精神」の不調和的表現手法より――
髙橋　龍夫（専修大学／日本）

（昼食休憩　　177 教室もしくは、一階食堂・二階カフェが利用可　　＊　理事会）

第Ⅱ部　１３：３０～１５：１５

司会　　馮　海鷹（清華大学／中国）

個人発表①　映画の〈仮感〉――芥川龍之介「片恋」「影」論

柴田　希（早稲田大学ほか非常勤／日本）

個人発表②　「南京の基督」考

大内　純（茨城大学大学院／日本）

個人発表③　芥川龍之介「二つの手紙」「影」考――神経症をめぐって

村山　麗（上智大学大学院／日本）

第Ⅲ部　１５：３０～１８：００

小特集②　「芥川龍之介の社会認識」

司会　堀　竜一（新潟大学／日本）

震災文学としての芥川龍之介の「疑惑」論

金（キム）　孝順（ヒョスン）（高麗大学／韓国）

芥川龍之介「彼　第二」論――〈彼〉への追想から見る〈僕〉の社会認識変化――

金　香花（大阪大学院／日本）

芥川龍之介「第四の夫から」論――＜さまよへる猶太人＞としての＜僕＞をめぐって

周　倩（立命館大学院／日本）

芥川龍之介「河童」論―アンチ・ユートピア小説と〈動物性〉―

堀　竜一（新潟大学／日本）

１８：３０～（予定）　懇親会　　177 教室

〔第２日目〕

（１０：１５　　諸連絡）

第Ⅰ部　１０：２０～１１：３０

司会　　宮﨑尚子（茨城大学／日本）

個人発表④　　芥川龍之介と図画の交わり――メディアの中の「地獄変」――

高井　祐紀（立教池袋中学校・高等学校／日本）

個人発表⑤　「路上」のテーマ群

今野　哲（日本体育大学／日本）

（昼食休憩　　※　理事会）

第Ⅱ部　１３：１５～１６：１５

特別企画特集「芥川文学のなかのロシア／ロシア文学のなかの芥川」

司会・コーディネイターの弁　　宮坂　覺

【第一部】　　司会　宮坂　覺（フェリス女学院大学名誉教授／日本）

芥川龍之介と近代ロシア文学　―　芥川の青春期を中心に　―
市川　裕見子（宇都宮大学／日本）
芥川龍之介におけるロシア文学邂逅の磁場――小宮豊隆、エリセーエフとの接点から――
溝渕　園子（広島大学／日本）
学生芥川はツルゲーネフをどう読んでいたか―『曠野のリヤ王』を手がかりとして―
籾内　裕子（早稲田大学／日本）

【第二部】　　司会　小林　幸夫（上智大学／日本）

ロシアにおける芥川龍之介作品の研究状況
ルジュヨーヴァ・マルガリータ（サンクト・ペテルブルク大学生／ロシア）
日本作家とロシア作家の作品における芥川龍之介の引喩
フロノープロ・リアーラ（サンクト・ペテルブルク大学／ロシア）
芥川龍之介の宗教的渇望とドストエフスキー体験―東方キリスト教に触れて
山根　道公（ノートルダム清心女子大学／日本）

１６：２５　　総会　（本部・支部報告、会計報告、事業計画、その他）
閉会の辞　国際芥川龍之介学会　副会長　　松本　常彦（九州大学／日本）

（～１７：００　閉会）

（※　オプショナルツアー　18：00 集合　　別途案内）

〔第３日目〕
9 月 22 日（土）　フィールドワーク
（「罪と罰」の舞台モデル、二葉亭四迷旧居、運河クルーズなど）